

東洋バレル技研株式会社

バレル研磨加工業の重要性を発信し、存在感を高める ——次世代のプロフェッショナルを見ずえる先見性

ここに注目! ◯ 幅広い対象に用いられるバレル研磨のプロ集団
◯ 作業工程の細分化によって現場作業のイメージを刷新

バレル研磨加工業のイメージアップ

「僕は2019年に入社して、2020年1月に製造部長になりました。子供ができるから安定した職に就きたいというのが入社したきっかけですが、とにかく社長も社員も明るい。毎日とても楽しく働いています」

こう語る竹内浩二さんが勤める東洋バレル技研は、社員10名の企業。少数であるが、別所長政社長が精力的に経営者の集まりや展示会に参加し、発信することで、バレル研磨加工業界でも異彩を放つ企業として注目を集めている。

同社は1975年に別所社長の父別所正章さんが創業した。別所社長は元々ホテルマンとして海外

で活躍しており、スイスのホテル学校を卒業した後、アメリカやカリブ海、シンガポールのホテルに勤務。ところが、26歳に帰国してまもなく父が糖尿病を患い、心身ともに不安定になったことから一念発起して会社を継いだ。

社員の協力もあり、2007年には過去最高の売上を記録。翌年にはさらなる増産に対応するために第2工場を建設した。ところが、2008年秋のリーマン・ショックの影響により会社は再び危機的状況に陥る。度重なる不運に「もう会社を畳んでしまおうか」と思っていた別所社長だったが、たまたま参加した経営者の集まりで気持ちを新たにすることになる。「中小企業は経営者によっていくらでも変わる」と。

その後、この言葉を胸に別所社長らはバレル研磨加工業界のイメージ変更を試みる。

1つは、業務および勤務体制の改善。具体的には、作業工程を細分化することで業務の効率化を徹底し、2019年10月には完全週休二日制を実現した。従来、バレル加工業をはじめ工場勤務は、朝は早くて夜は遅い。休日はほとんどないというイメージがあった。2018年に入社したばかりの藤谷幸照さんも「過酷な労働環境に違いない」と考えていた。しかし、このような改善により「昼過ぎにはその日の作業がほぼ終了。しかも完全週休二日制となり、工場勤務のイメージが大きく変わりました」と藤谷さんは続ける。

もう1つの取り組みは、バレル



▲協力してバレル研磨機にワークを供給する藤谷さん（左）と竹内さん（右）



▲東洋バレル技研は6台の研磨機で研磨加工を行う



▲研磨機に併設されている脱水乾燥機。同社の研磨加工を支える

ル研磨加工の重要性の発信。バレル研磨は、対象物と研磨石・研磨材、コンパウンド、水などが、すべり層の部分のみで相互運動を生じさせて研磨を行う。粗仕上げから光沢仕上げまで広範囲の研磨ができる。量産部品の仕上げを目的になされるが、超高精度を謳う機械加工などに比して、やや地味な印象がある。そこで、展示会に参加したり様々な企業に会社案内をDM配送したりすることで、バレル研磨の重要性の発信に努めている。

こうした取り組みは、社員に良い影響を与えている。バレル研磨の対象はアクセサリや調理器具といった身近なものから建築金物や照明器具まで幅広い。「だからこそ、当社はバレル研磨を通じて

社会に貢献できる」と竹内さんは胸を張る。社員に誇りを持って仕事に従事してもらおうという点で、別所社長の活動は成果を上げている。

誰もができるプロの技を


現在は、将来を見据えて「次世代のプロフェッショナル」の育成に取り組んでいる。特に別所社長が力を入れているのが「職人技をなくす」こと。上述した各工程の細分化も、次世代のプロフェッショナルの育成の一環という。

「今は様々な業界において職人技を守ることや職人を育てることが難しい時代。現場が職人頼りになると、バレル加工の質にも影響を及ぼします」。このような課題認識から至った考えであり、シス

テム面での工夫により「誰でもできるプロの研磨加工の技」の確立を見ずえている。

そうした別所社長の熱意を受け、竹内さんは今後の目標をこう語ってくれた。「まずは作業工程のさらなる効率化に向け個々の能力を上げていきたいです」。また、藤谷さんは「当社のような仕事や考え方を、社長を通じて多くの人に知ってもらいたい」と続けた。

「中小企業は経営者によっていくらでも変わる」と決意した別所社長が牽引し、その背中を見てきた社員も変わることで成長してきた同社。次世代のプロフェッショナルの模索を通じて、さらなる変化と成長が促されると期待される。

<p>INTERVIEW わが社の魅力を語る</p>	<p>1人ひとりに役割分担がある会社です</p>
<p>代表取締役 別所 長政さん</p> 	<p>当社は1975年に創業以来、精密や自動車の部品、建築金物、照明器具など、金属・樹脂部品のバリ取りから酸化被膜除去や光沢仕上げまでバレル研磨事業を幅広く行っています。2018年にISO 9001を、2019年にISO 14001を取得しましたが、バレル研磨業界でこの両方取得しているのは稀有であると自負しています。</p> <p>また人材育成については、各種資格取得支援制度のほか、各工程を細分化することで一連の作業の流れを社員が把握しやすくしました。1人ひとりがバレル研磨のプロフェッショナルになれるよう、システム面の創意工夫にも取り組んでいます。</p>

<p>会社 DATA</p>	<p>本社所在地：大阪市平野区加美東 4-5-11 設立：1977年10月（創業：1975年） 代表者：代表取締役 別所 長政 資本金：1,000万円 従業員数：10名 事業内容：金属・樹脂部品のバレル研磨、表面処理バレル研磨後に付帯する部品加工、揺動式遠心バレル研磨機での加工 主な支援制度：資格取得支援制度 URL：https://to-yo-barrel.com/</p>
----------------	---

